

平成29年度 保健福祉システム部会業務報告会

## 地域医療ネットワークの標準化と各種動向

平成30年2月16日

地域医療システム委員会  
委員長 田中 良樹

© JAHIS 2018

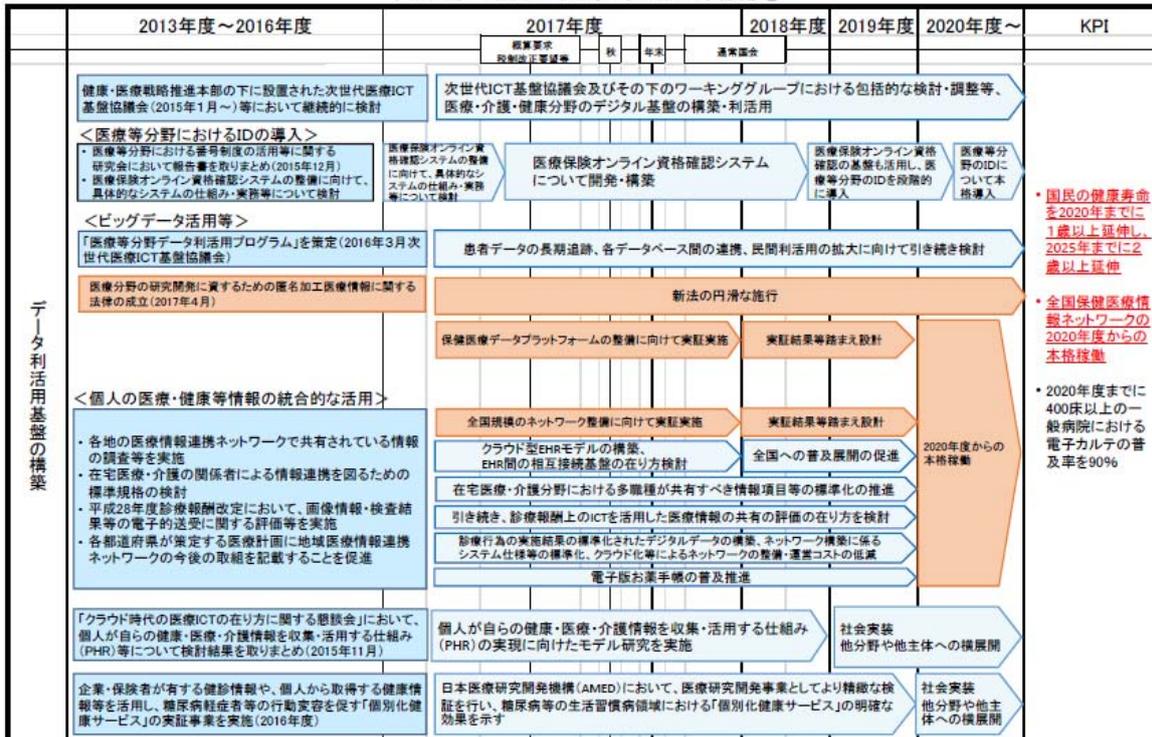
## Agenda

- 未来投資戦略2017
- 医療等分野のネットワーク相互運用性
- 総務省EHR高度化事業
- 科学的介護と介護現場のICT化推進施策
- データヘルス改革
- 地域医療システム委員会活動報告
- 電子処方せん実装ガイド策定タスクフォース

# 未来投資戦略2017

## 「未来投資戦略2017」中短期工程表

中短期工程表「健康・医療・介護」①

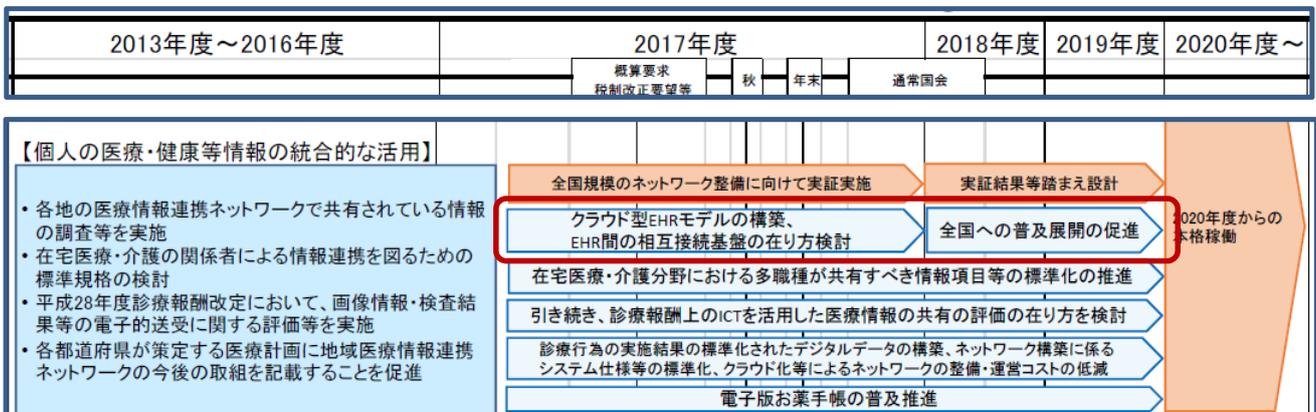


# 医療等分野のネットワーク相互運用性 (IX接続方式)

## 医療等分野のネットワーク相互運用性

### 未来投資戦略2017 Society5.0の実現に向けた改革

#### 中短期工程表「健康・医療・介護①」



## 「医療等分野専用ネットワーク」の目的および基本コンセプト

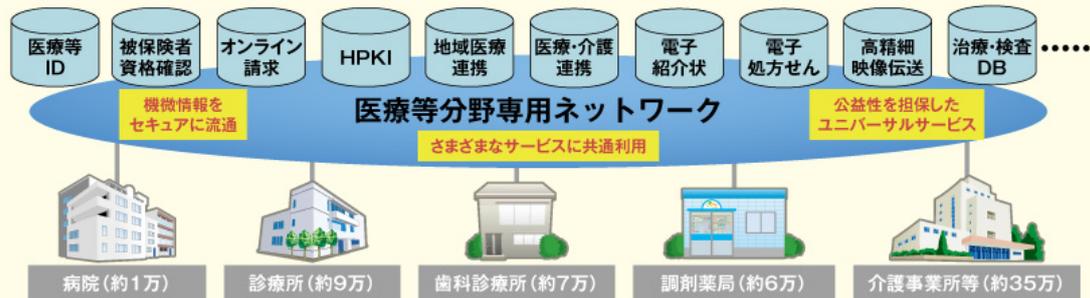
- 医療等分野においては、従来より目的別・地域別にネットワークが構築されてきた<sup>※1</sup>が、今後見込まれるさまざまなサービス<sup>※2</sup>の普及に向けては、共通利用できる高度なセキュリティが確保された公的広域ネットワークが求められている。
  - ※1 地域医療連携、医療・介護連携、遠隔医療等、全国200以上の独自ネットワークが存在
  - ※2 医療等ID、被保険者資格確認、オンライン請求、HPKI、地域医療連携、医療介護連携、電子紹介状、電子処方せん、高精細映像伝送、治療・検査DB等
- 上記を踏まえ、医療サービスの充実と社会保障費の適正化を目指す上で、「医療等分野専用ネットワーク」の構築が必要。まずは、実用化に向けたパイロット事業を行い、技術検証及び運用ルール策定を行うことが望ましい。

### <医療等分野のネットワークにおける現状の課題>

- 地域医療連携、医療・介護連携、電子紹介状、電子処方せん、治療・検査DB等、機微な情報を扱うさまざまな医療等のサービスを共通利用するための高度なセキュリティが確保されたネットワークが存在しない。
- 医療等ID、被保険者資格確認、HPKIの普及に向け、悉皆性のある公的全国ネットワークが必要。

### <解決の方向性（医療等分野専用ネットワークの基本コンセプト）>

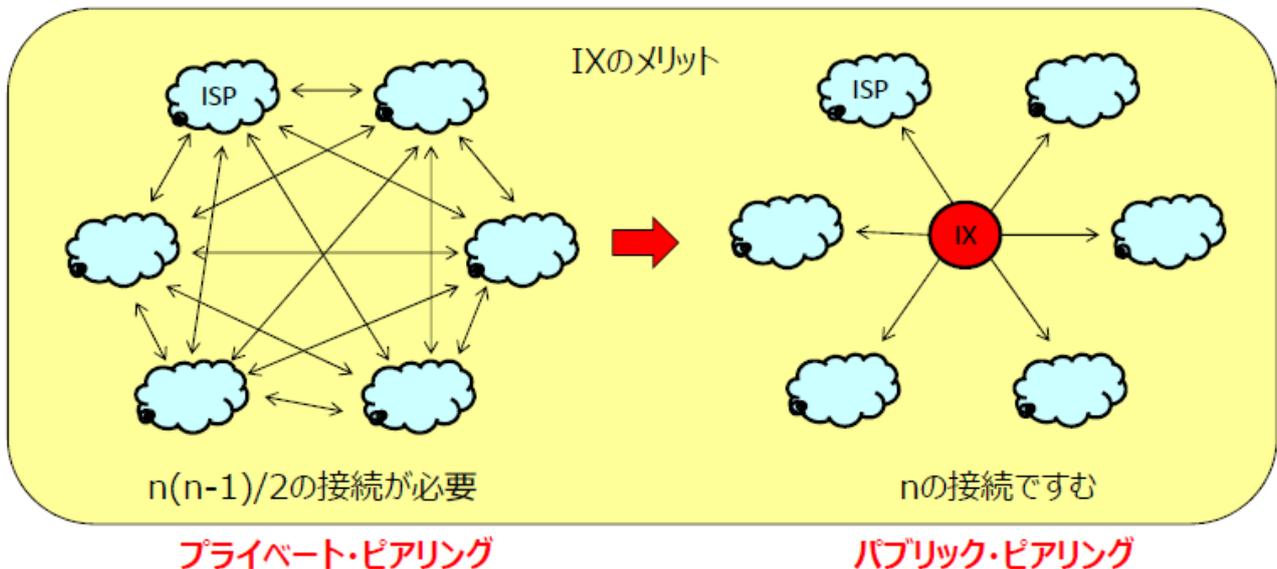
- 厳格な機関認証を受けた医療機関等、並びに接続要件を満たしたサービス提供事業者のみが接続する、セキュリティが確保された医療等分野に閉じたネットワーク
- 医療等分野におけるサービスの共通利用が可能な、全体最適化されたネットワーク
- 公益性を担保し、全国をカバーする、ユニバーサルサービス



※なお、ネットワークの構築に当たっては、オンライン請求や地域医療連携等の既存のネットワークを包含する形で活用する。

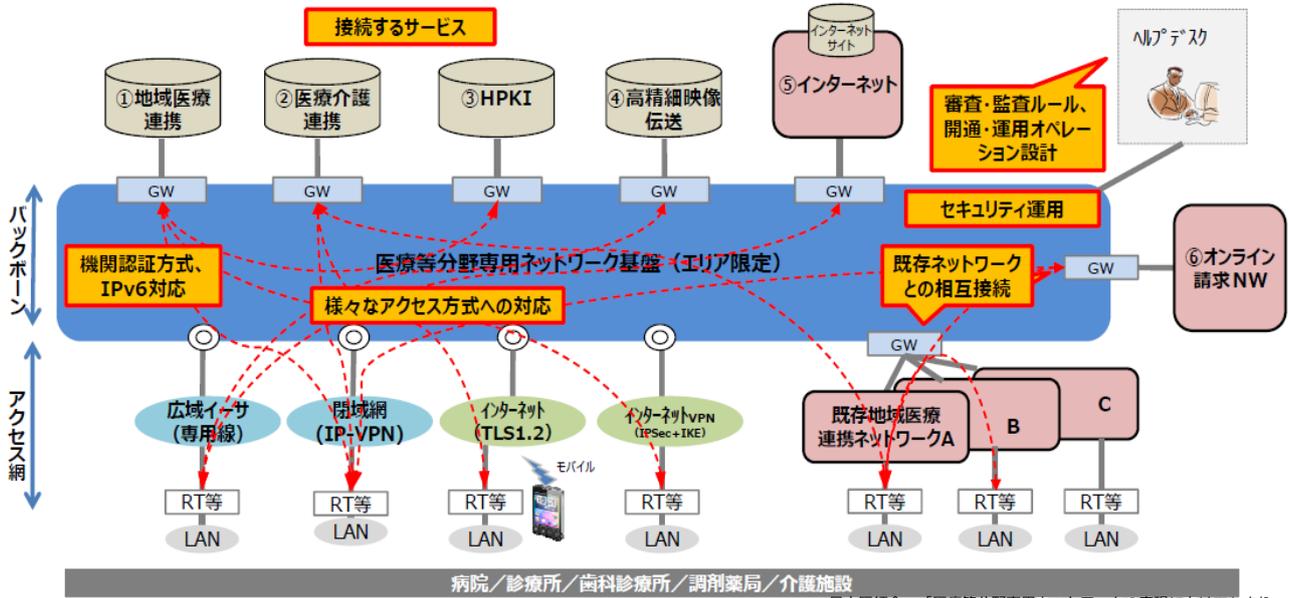
IXは、ISP（インターネットサービスプロバイダ）の相互接続点として、経済的な接続環境によるインターネット接続コストの低減、接続ホップ数の削減によるバックボーンのパフォーマンス向上等の役割が期待されており、インターネットのネットワークの中で極めて重要な位置を占める。

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/policyreports/joho\\_tsusin/joho\\_bukai/010719\\_1-3-1.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/joho_tsusin/joho_bukai/010719_1-3-1.pdf)



- ▶ 前項検討事項に対し、パイロット事業を行い、技術検証および運用ルール策定を行う。
- ▶ 具体構成として、エリアを限定した医療等分野専用ネットワーク基盤を構築し、病院、診療所、薬局、介護施設等を接続。また、既存地域医療連携ネットワーク、オンライン請求ネットワークと相互接続。
- ▶ 接続するサービスは、当面は現存する下記6つを想定。  
①地域医療連携 ②医療介護連携、③HPKI、④高精細映像伝送、⑤インターネット接続、⑥オンライン請求

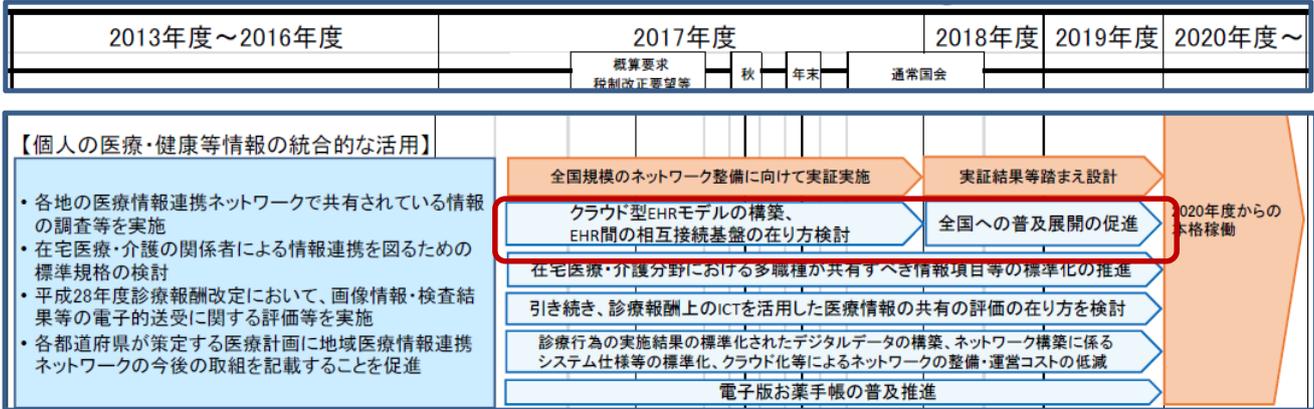
## 【ファーストステップのイメージ】



# 総務省クラウド型EHR高度化事業

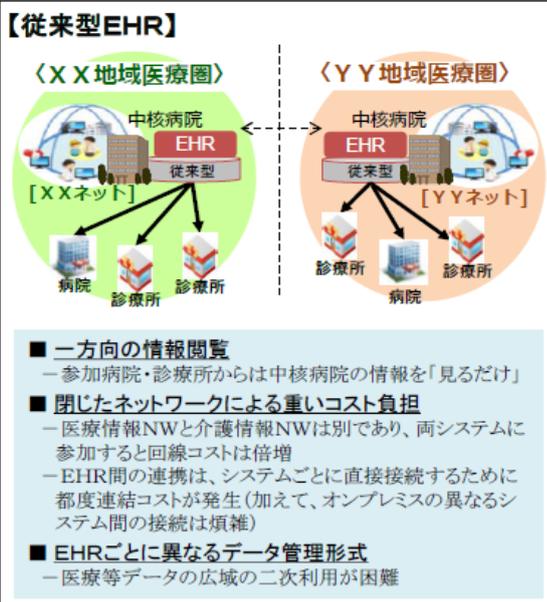
**未来投資戦略2017 Society5.0の実現に向けた改革**

**中短期工程表「健康・医療・介護①」**

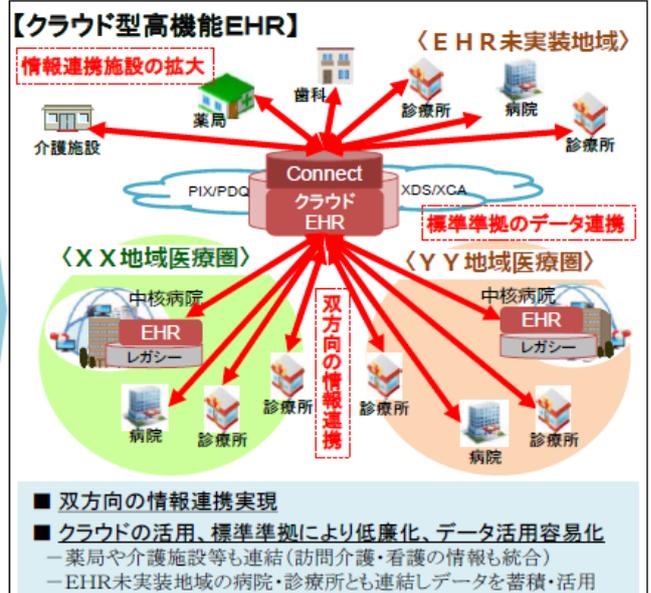


**JAHIS 総務省 クラウド型EHR高度化補助事業**

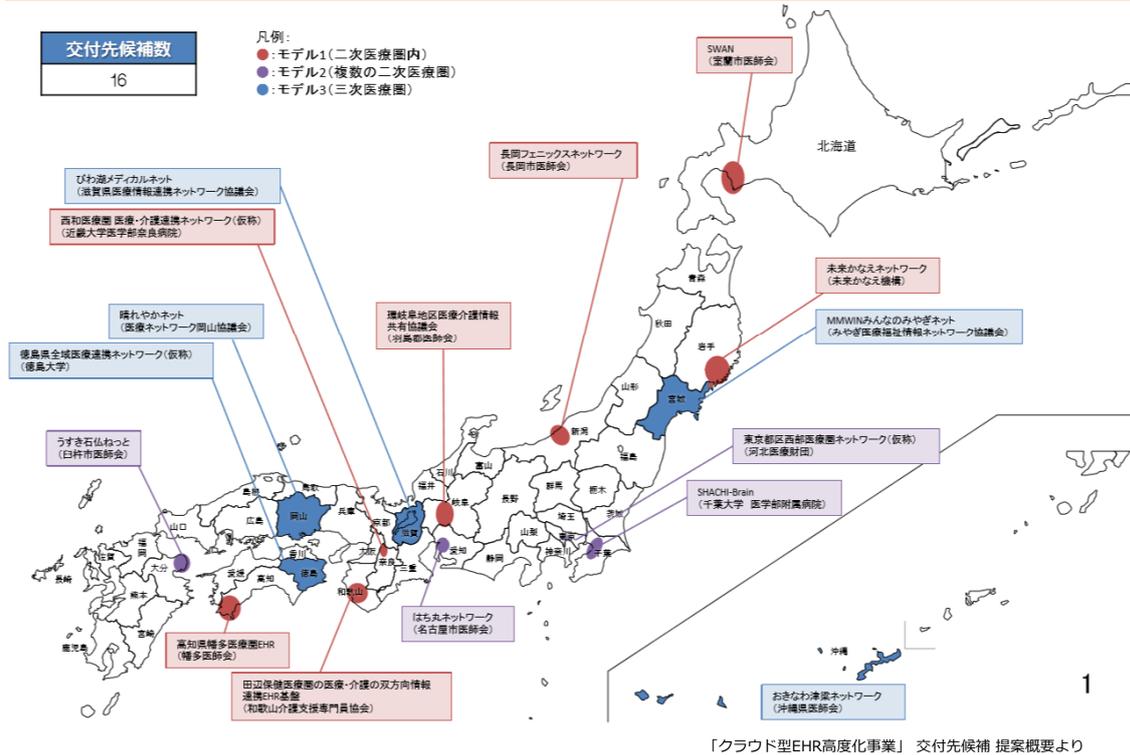
- 全国各地に約270の医療情報連携基盤(EHR)が存在するが、EHRのメリットと比較した運用経費負担が重いことや、参加施設及び患者等の参加率が低いこと等により活用が進んでいない。
  - 医療機関と介護事業者間、広域の地域医療圏における情報連携を実現するクラウド型EHRを整備する事業に対して、補助を実施
- 【H28年度補正予算：20億円】



EHR高度化支援の実施



## クラウド型EHR高度化事業 交付先候補一覧



## 共通仕様での対応するIHE-ITI統合プロファイル

プロファイル名		対応	可否
PIX	Patient Identifier Cross-referencing	患者ID相互参照	×
PIXV3	Patient Identifier Cross-reference HL7V3	患者ID相互参照V3	○
PDQ	Patient Demographics Query	患者基本情報の問合せ	○
XDS	Cross-Enterprise Document Sharing	施設間情報共有	○
XDS-I	Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging	画像のための施設間情報共有	×
XCA	Cross-Community Access	コミュニティ間連携	○
XCA-I	Cross-Community Access for Imaging	画像のためのコミュニティ間連携	×
CT	Consistent Time	時刻同期	別途検討
ATNA	Audit Trail and Node Authentication	監査査証およびノード認証	別途検討



自立支援に関する未来投資戦略の記載

未来投資戦略2017 本文

- ④自立支援・重度化防止に向けた科学的介護の実現
- ・次期介護報酬改定において、効果のある自立支援について評価を行う。
  - ・どのような状態に対してどのような支援をすれば自立につながるかわかり、自立支援等の効果が科学的に裏付けられた介護を実現するため、必要なデータを収集・分析するためのデータベースを構築する。本年度中にケアの分類法等のデータ収集様式を作成し、来年度中にデータベースの構築を開始し、2019年度に試行運用を行い、2020年度の本格運用開始を目指す。

未来投資戦略2017 中短期工程表

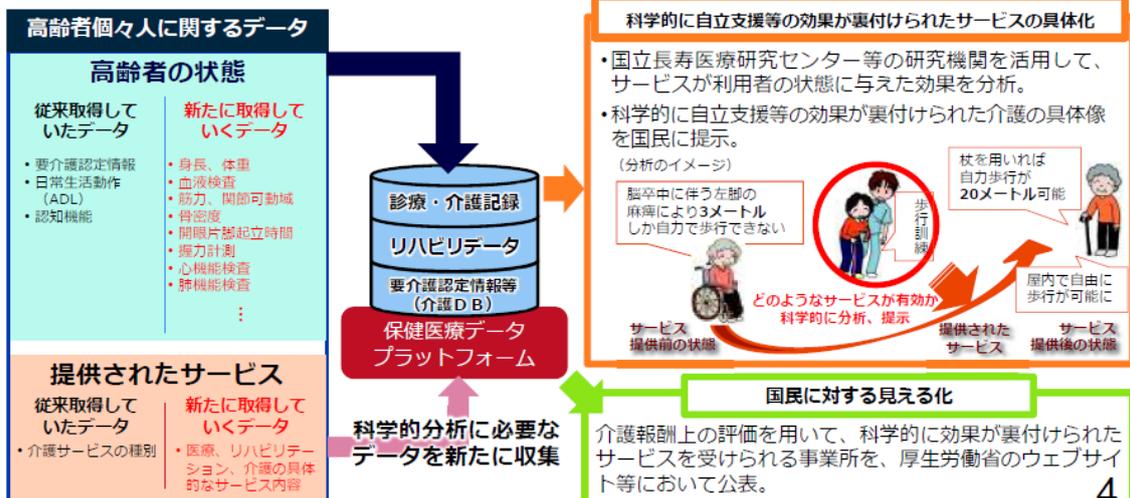


3

JAHIS 科学的介護の実現

科学的介護の実現 —自立支援・重度化防止に向けて—

- 科学的に自立支援等の効果が裏付けられた介護を実現するため、科学的分析に必要なデータを新たに収集し、世界に例のないデータベースをゼロから構築。
- データベースを分析し、科学的に自立支援等の効果が裏付けられたサービスを国民に提示。
- 2018（平成30）年度介護報酬改定から、自立支援に向けたインセンティブを検討。



4

## 介護領域のデータベースの内容



### 介護保険総合データベース

- ・ 要介護認定情報、介護保険レセプト情報が格納
- ・ 要介護認定及び請求・支払いの際に保険者が収集。平成30年度よりデータ提供義務化予定

### 通所・訪問リハビリテーションの質の評価データ収集等事業のデータ

- ・ 通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所からリハビリテーション計画書等の情報を収集。（現時点で100カ所弱。今後事業所数を拡大予定。）
- ・ 通称“VISIT”（monitoring & eValuation for rehabIilitation SerVices for long-Term care）
- ・ 収集経路は今後検討（現時点では、匿名化の上でインターネットを通じ収集）

### 上記を補完する介入、状態等のデータ

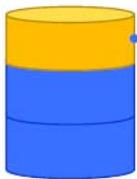
- ・ 新たに構築。収集内容は主に本検討会で議論。
- ・ 通称“CHASE”（Care, HeAlth Status & Events）
- ・ 収集経路は、今後、収集内容を踏まえて検討。
- ・ 2020年度からの本格運用を目指す。

※ 医療や健診のデータとの連結についても、IDの突合等の諸問題を解決しつつ進めていく。

未来投資会議 構造改革徹底推進委員会 「健康・医療・介護」会合第1回より

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

## 介護領域のデータベースの内容



### 介護保険総合データベース

- ・ 要介護認定情報
    - ・ 要介護認定の期間
    - ・ 要介護度
    - ・ 要介護認定調査（74項目）の結果
      - ・ 5群+1の分野
        - ・ 第1群：身体機能・起居動作
        - ・ 第2群：生活機能
        - ・ 第3群：認知機能
        - ・ 第4群：精神・行動障害
        - ・ 第5群：社会生活への適応
      - ・ 過去14日間に受けた特別な医療
    - ・ 3種類の評価軸
      - ・ 能力
      - ・ 介助の方法
      - ・ 障害や現象の有無 等
- ・ 介護保険レセプト情報
  - ・ 利用したサービス種別
  - ・ 利用回数
  - ・ 加算の算定の有無 等

#### 留意点

- ・ 市町村の職員等が標準化された方法で評価
- ・ 長い場合2年に1度の更新
- ・ 各項目2-6段階の評価
- ・ 「介護の手間」を反映する要介護基準時間へ換算可能

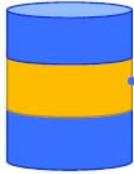
#### 留意点

- ・ 提供されたケア等の内容は、報酬請求の範囲内で類推可能

未来投資会議 構造改革徹底推進委員会 「健康・医療・介護」会合第1回より

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

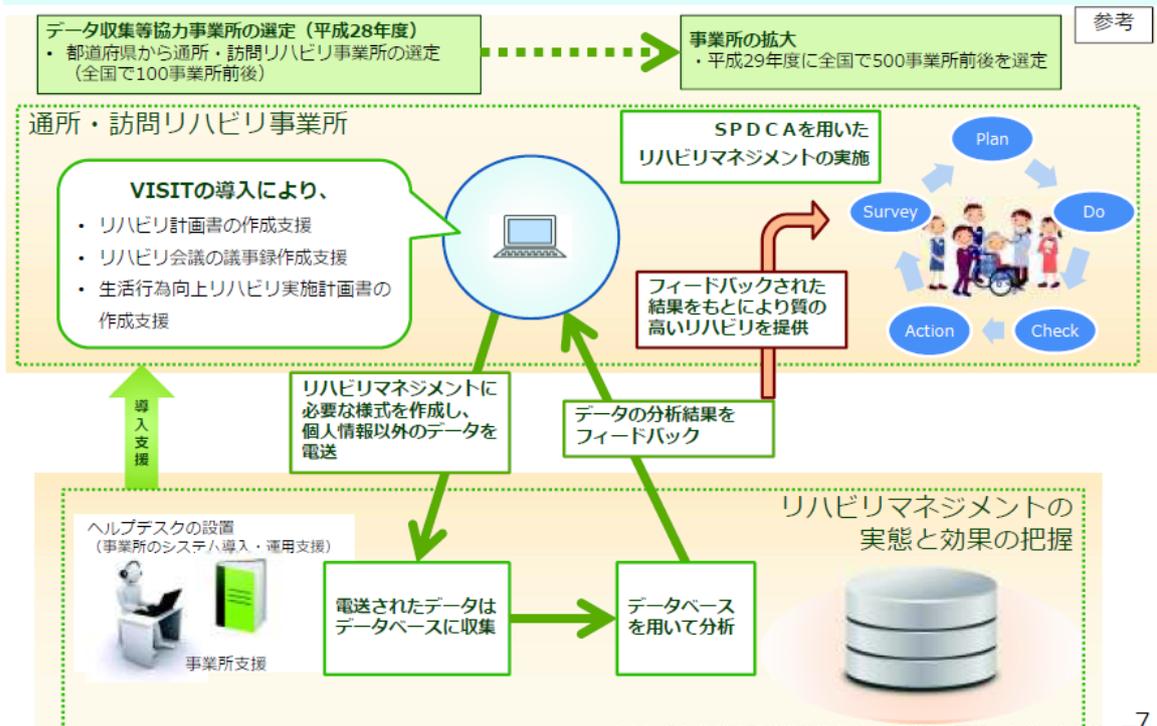
## 介護領域のデータベースの内容



### 通所・訪問リハビリテーションの質の評価データ収集等事業のデータ

- 通所リハビリテーション及び訪問リハビリテーションの介護報酬において、調査 (Survey)、計画 (Plan)、実行 (Do)、改善 (Action) のSPDCAサイクルを通じて、心身機能、活動及び参加にバランスよくアプローチするリハビリテーションが提供されるよう継続的に管理することを評価した「リハビリテーションマネジメント加算」等が存在。
  - 事業所がリハビリテーションマネジメント加算等を算定する場合、以下の文書を定められた様式で作成することが必要。
    - 様式1：興味・関心チェックシート
    - 様式2：リハビリテーション計画書 (アセスメント)
    - 様式3：リハビリテーション計画書
    - 様式4：リハビリテーション会議録
    - 様式5：プロセス管理票
    - 様式6：生活行為向上リハビリテーション実施計画
- リハマネ加算 (I) を算定する場合  
 リハマネ加算 (II) を算定する場合  
 生活行為向上リハ実施加算を算定する場合
- 通所・訪問リハビリテーションの質のデータ収集等事業においては、これらを電子的に入力 (または電子的に入力されたものを取り込み) できるようにし、かつその内容を国に提出してフィードバックが受けられる仕組みを構築。
  - 現在、100力所弱の事業所が参加。今後、参加事業所数を拡大していく予定。

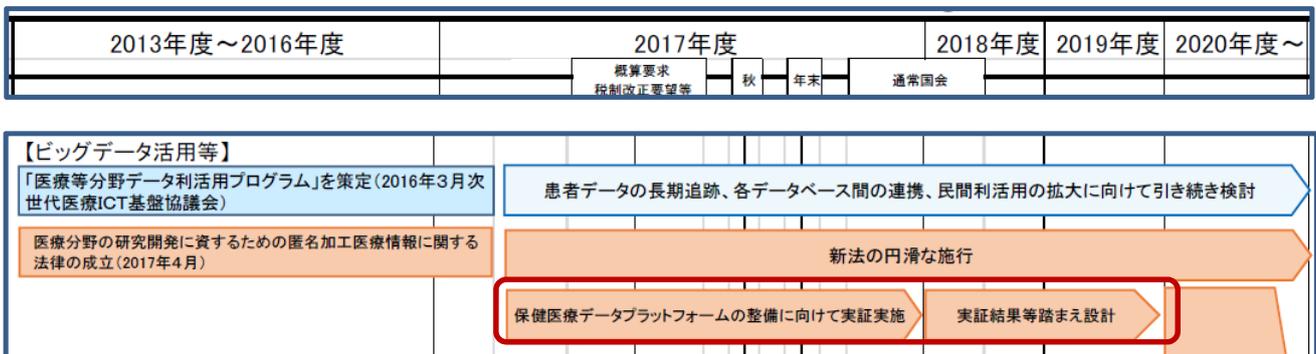
## 通所・訪問リハビリテーションの質の評価データ収集等事業 (VISIT)



# データヘルス改革

## 未来投資戦略2017 Society5.0の実現に向けた改革

### 中短期工程表「健康・医療・介護①」



## データヘルス改革により提供をめざす7つのサービス

計数は、平成30年度予算案。( )内の計数は、平成29年度当初予算額。

平成30年度 予算案 85.4億円(17.1億円)

### I. 全国的なネットワーク構築による医療・介護現場での健康・医療・介護の最適提供

#### ① 全国的な保健医療ネットワークを整備し、医療関係者等が円滑に患者情報を共有できるサービス

##### ▶セキュリティ関連事業：4.2億円（新規）

全国保健医療情報ネットワークのセキュリティ対策に関し、機能の調査、実証、要件定義やガイドライン策定等を行う。

##### ▶保健医療記録共有サービス実証事業：0.8億円（新規）

保健医療記録共有サービスの本格稼働に向け、保健医療記録の個人ごとの時系列管理、情報更新等の仕組み、提供画面、本人同意などの課題の検討や実証を行う。

#### ② 医療的ケア児(者)等の救急時や予想外の災害、事故に遭遇した際に、医療関係者が、迅速に必要な患者情報を共有できるサービス

##### ▶医療的ケア児等医療情報共有サービス基盤構築事業：1.5億円（新規）

平成29年度の医療的ケア児の医療情報の共有に関する実証事業で把握した課題・問題点を検討の上、医療的ケア児等がICTを活用し外出先でも適切な医療を受けられるよう、全国規模のサービス実施体制を整備する。

### II. 国民の健康確保に向けた健康・医療・介護のビッグデータ連結・活用

#### ③ 健康に関するデータを集約・分析し、個人(PHR)や事業主(健康スコアリング)に健康情報を提供するサービス

##### ▶レセプトデータ等を活用したデータヘルスに関する事業：0.5億円（新規）

コラポヘルス推進のため、各保険者の加入者の健康状態や健康関連コスト等を見る化したスコアリングレポートについて、事業主向けに作成する機能を導入するための仕様を検討する。

#### ④ 健康・医療・介護のビッグデータを個人単位で連結し、解析できるようにするサービス

##### ▶データヘルス分析関連サービスの構築に向けた整備：12.0億円（新規）

健康・医療・介護のデータベースを連結して解析できるよう、具体的なシステム構成等について検討する。

第3回 データヘルス改革推進本部より

## データヘルス改革の全体像（案）

### ▶データヘルス改革によって実現することの例

- マイナンバーカードを健康保険証に代用できる
- 複数の医療機関で診療情報が共有され、無駄な検査や投薬が減る
- 個人にあった薬を選択したり、効果的な介護サービスを受けられる
- 企業の予防・健康づくりの効果がわかる

### ▶データヘルス改革によって期待される効果

#### 個人

- ・これまで治療等が困難だった病気（がん、認知症など）の克服や最先端の医療へのアクセスを改善（IV）
- ・災害・事故などに遭遇しても、安心して確かな医療を受けることができる（I）
- ・効果的な健康づくりの取組や、科学的に自立支援等の効果が裏付けられた介護サービスの提供により、健康寿命が延伸する（II、III）
- ・医療・介護サービスが切れ目なく提供され、住み慣れた地域で安心して生活ができる（地域包括ケア）（I、II）

#### 医療等の関連制度

- ・豊富なデータの分析により、行政がより適切な医療・介護政策を企画・立案・実施（II、III）

※ ( )内は提供を旨とするサービスのうちに関連するものを記載。

#### 健康・医療・介護の従事者

- ・患者の過去の診療データ等を参照でき、より適切な治療やサービス提供が可能。（I）
- ・最先端の技術や科学的に自立支援等の効果が裏付けられたサービス等の提供により、さらに有効性の高い治療等を実現（III、IV）
- ・サービス提供の際の事務の効率化等（I）

#### 我が国の経済成長や科学技術水準の向上に貢献

- ・医療等分野の関連産業の活性化、競争力の向上、製薬企業によるデータ活用（IV）
- ・医療等分野における研究レベルの向上（II、III、IV）
- ・医療費の適正化や生産性の向上に向け、保険者と事業主（企業）が連携して従業員等の予防・健康づくりの取組を実施（II）

4

第3回 データヘルス改革推進本部より

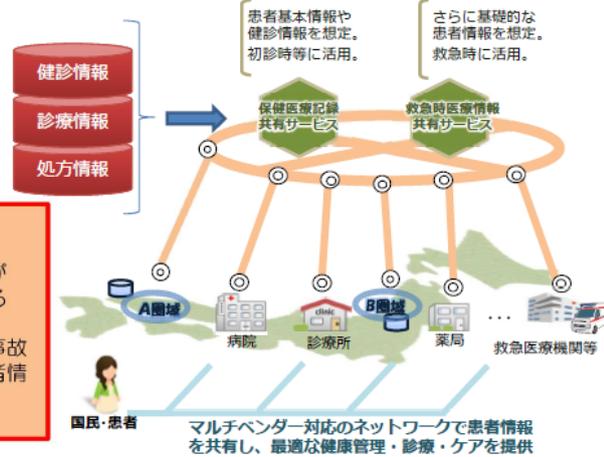
## データヘルス改革で実現を目指すサービス①、② (保健医療記録共有、救急時医療情報共有)

**課題**

・個人の健診・診療に関する情報が、医療機関等に分散して管理されており共有ができず、個人の病状や投薬歴等の診療に必要な基本的な情報をその都度把握し直さなければならない。

**データヘルス改革で実現を目指すサービス**

- ・全国的な保健医療ネットワークを整備し、
  - 患者同意を前提として、初診時等に、医療関係者が患者の過去の健診・診療・処方情報等を共有できるサービス
  - 医療的ケア児(者)等の救急時や予想外の災害、事故に遭遇した際に、医療関係者が、迅速に必要な患者情報を共有できるサービスの提供を目指す。



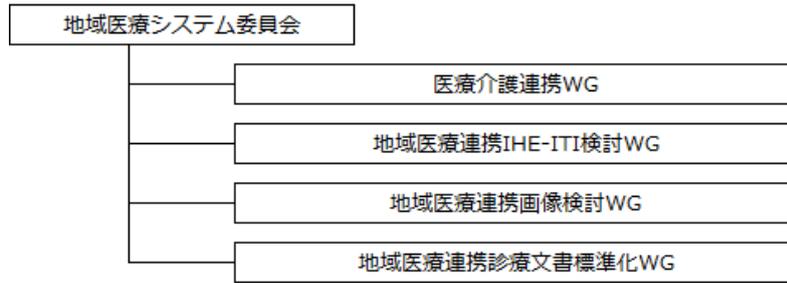
**スケジュール**

2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)
実証事業等を開始 検討会での議論	夏目途に工程表の提示 (医療的ケア児等については、全国規模のサービス実施体制を整備)	本格稼働に向けての準備	本格稼働

**平成30年度予算(案) 6.5億円**

- ・全国保健医療情報ネットワークのセキュリティ対策に係る調査、実証、要件定義やガイドライン策定等
- ・保健医療記録共有サービスの本格稼働に向けた課題の検討や実証
- ・医療的ケア児等の医療情報を共有するための全国規模のサービス実施体制の整備

# 地域医療システム委員会活動報告



地域医療システム委員会	委員長	田中 良樹	富士通(株)
"	副委員長	濱島 健一	(株)NTTデータ
"	副委員長	安田 典弘	日本電気(株)
"	副委員長	北山 健児	富士通(株)
医療介護連携WG	リーダー	光城 元博	(株)日立製作所
"	サブリーダー	廣田 史門	(株)久保田情報技研
"	サブリーダー	保坂 雅樹	(株)モアソフト
地域医療連携 I H E - I T I 検討WG	リーダー	足立 重平	日本電気(株)
"	サブリーダー	渡辺 響	富士通(株)
地域医療連携画像検討WG	リーダー	北山 健児	富士通(株)
"	サブリーダー	山口 剛史	GEヘルスケア・ジャパン(株)
地域医療連携診療文書標準化WG	リーダー	濱島 健一	(株)NTTデータ
"	サブリーダー	矢原 潤一	日本電気(株)

**委員会開催**

委員会については四半期に一度のペースで開催し、2017年後は以下の内容で情報共有を中心に実施している。  
(次回は2018年3月9日)

5/16	8/8	12/4
<ul style="list-style-type: none"> <li>各WG報告</li> <li>厚労省事業「医療情報連携ネットワークにおける標準規格準拠性の検証機能の実現に向けた調査研究業務」</li> <li>厚労省事業「医療等分野におけるネットワークの相互接続の実現にむけた調査研究業務」</li> <li>厚生労働省「医療情報連携ネットワーク支援Navi」</li> <li>総務省 クラウド型EHR高度化補助事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各WG報告</li> <li>電子処方せん実装ガイド Ver1.0について</li> <li>第21回医療情報学会春季学術大会</li> <li>総務省 クラウド型EHR高度化補助事業</li> <li>地域医療連携事例勉強会</li> <li>未来投資戦略2017</li> <li>世界最先端IT 国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各WG報告</li> <li>第37回医療情報学連合大会</li> <li>地域医療連携事例勉強会</li> <li>地域医療システム委員会中期計画の説明</li> <li>医療・介護・保育WG資料（在宅での看取りにおける規制の見直しについて）</li> <li>第108回社会保障審議会医療保険部会 オンライン資格確認等について</li> <li>HEASNET フォーラム 2017</li> </ul>

## 全国の地域医療ネットワーク事例 勉強会

病病連携、病診連携、医療介護連携、在宅医療、その他サービスの事例と**セキュリティポリシー**、**同意書運用**の扱いや**標準化**の対応などについて事例を発表していただき、共有を図った。

- ・ゆけむり医療ネット（富士通）
- ・キッズ向けHP、とちまるネット、ピカピカリンクなど（NEC）

## 医療情報学会情報共有

第21回日本医療情報学会春季学術大会、第37回医療情報学連合大会で地域医療システムに関するセッションの情報共有をはかった。

## 教育事業

医療情報システム入門コース、医療情報システム入門・1日集中コースの地域医療システムに講師を派遣しています。

## 日立製作所 光城リーダ

### 1) 厚生労働省老健局・保険局を中心とした標準化推進に向けた活動

厚労省老健事業「在宅医療と介護の連携のための情報システムの共通基盤の構築に向けた規格の策定に関する調査研究事業」の報告書を4/10厚労省へ納品し、その後今後の進め方について老健局と定期的に協議を実施。医療連携および介護事業者間連携の標準化における平成32年度までのスケジュール・作業内容について協議した。また保険局「地域における医療・介護の連携強化に関する調査研究」WGに出席

### 2) 各種会合への参加とWGおよび委員会メンバーへの情報共有

全国在宅療養支援診療所連絡会 第5回 全国大会  
第19回 日本在宅医学会大会  
などに委員を派遣しその内容についてWGおよび委員会メンバーへの共有を行った。

### 3) 医療介護連携の先進的取り組み事例の視察の実施（予定）

先進的取り組み事例として恵寿総合病院へ訪問し、PHRや医療介護共同記録等を見学の実施（3月頃を予定）をし、診療文書標準化WGとともに今後の医療介護連携における標準化の方向性の整理を行い、医療介護連携の標準化を加速させる。

**日本電気 足立リーダ**

地域医療連携 画像検討WGと合同で協議を重ね、IHE-ITIに関する情報収集、技術実装に関する課題を踏まえて「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編Ver.3.0」の改定(Ver3.1)を行った。

**1) 相互運用性を確保した連携を図るためのITインフラ整備**

昨年度抽出した「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.0」に基づいた実証課題を元に、ガイド本編の改定を行った。(Ver3.1)

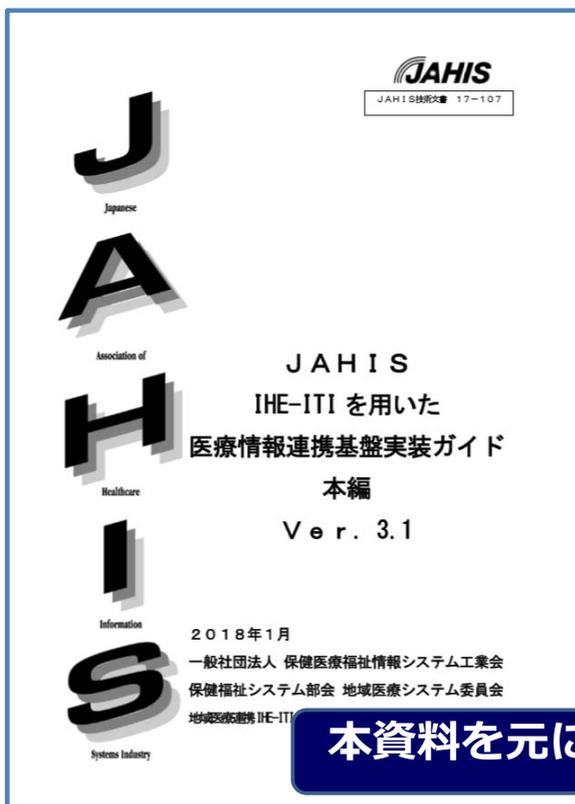
17-107 | [JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.1](#) **NEW!** | 制定2018年01月

**2) WG活動の情報発信**

- ・総務省クラウド型EHR高度化事業の共通仕様に対して、「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.0」に基づいて意見をまとめる。
- ・「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.0」の勉強会を開催するなど活動を実施した。

次年度の活動に活用するため、日本再興戦略で掲げられている2018年までに地域医療ネットワークを全国各地へ普及させる目標達成に向け、ガイド本編の改定には盛り込むことが困難であったプロファイルや関連するガイドラインとの位置づけなど、WG意見として整理中。

**JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド 本編 Ver.3.1**



1. はじめに
2. 共通要件
3. PIX/PDQ
4. XDS. b
5. XDS-I. b
6. XCA/XCA-I
7. ATNA/CT
8. 実装上の留意点
9. 共通データ仕様
10. コード定義
11. オブジェクト識別子 (OID) 定義
12. 参考文献

**本資料を元に検討、2018年1月Ver3.1に改版**

**NTTデータ 濱島リーダ**

地域医療連携を行うにあたり、連携ニーズが高い診療文書の標準化を定めることを目的として活動を実施した。SS-MIX2標準化ストレージに格納される情報以外で連携ニーズが高い文書として経過記録をJAHIS標準化し、また医療介護連携分野を中心に標準化すべき文書の整理を推進している。

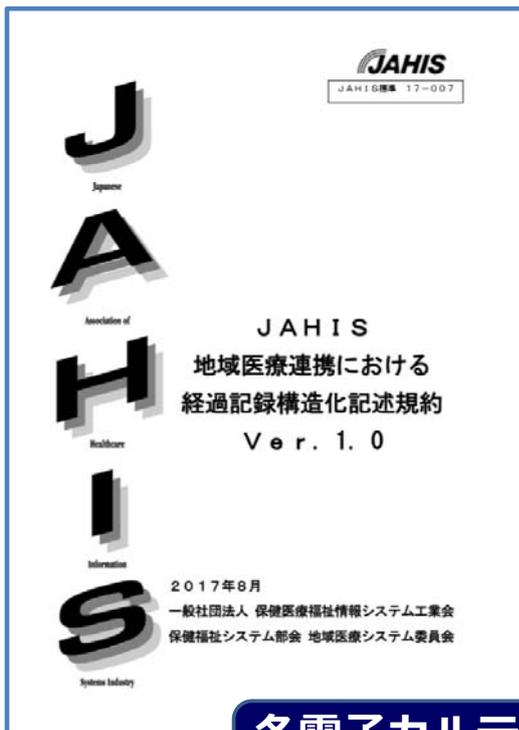
**1) 標準化に向けた活動**

2016年度から活動している経過記録の標準化を「地域医療連携における経過記録構造化記述規約Ver1.0」として、JAHIS標準化した。(2017年8月)  
CDAヘッダにおいては、既に「JAHIS標準15-003JAHIS診療文書構造化記述規約共通編Ver1.0」に従うこととし、各項目のマッピングについては、CCDAの実装ガイドをもとに検討を実施した。

**2) WG情報発信**

地域医療連携を行うにあたって連携ニーズの高い診療文書の次のターゲットとして、医療介護連携WGと連携し、医療介護連携分野を中心に情報交換を実施した。連携の全体像を整理しつつ、フェースシートなど標準化が望ましい領域の選定を進めている。

**JAHIS 地域医療連携における経過記録構造化記述規約 Ver1.0**



- 1. 概要**
  - 1.1 本規約と共通編の位置づけ
  - 1.2 各標準、実装ガイドとの関係性について
  - 1.3 「経過記録（プログレスノート）」の適用における指針について
  - 1.4 スキマトロンについて
- 2. 主な用語**
- 3. CDAヘッダ部**
  - 3.1 CDAヘッダ属性部
  - 3.2 ドキュメントヘッダ部
- 4. CDAボディ部**
  - 4.1 セクション概要
  - 4.2 セクション定義

**各電子カルテの実装により連携範囲は大幅に拡大  
2017年8月Ver1.0リリース**

**富士通 北山リーダ**

地域医療連携IHE-ITI検討 WGと合同で協議を重ね、IHE-ITIに関する情報収集、技術実装に関する課題を踏まえて「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.0」の改定に向けた提言をまとめている。

**1) 相互運用性を確保した連携を図るためのITインフラ整備**

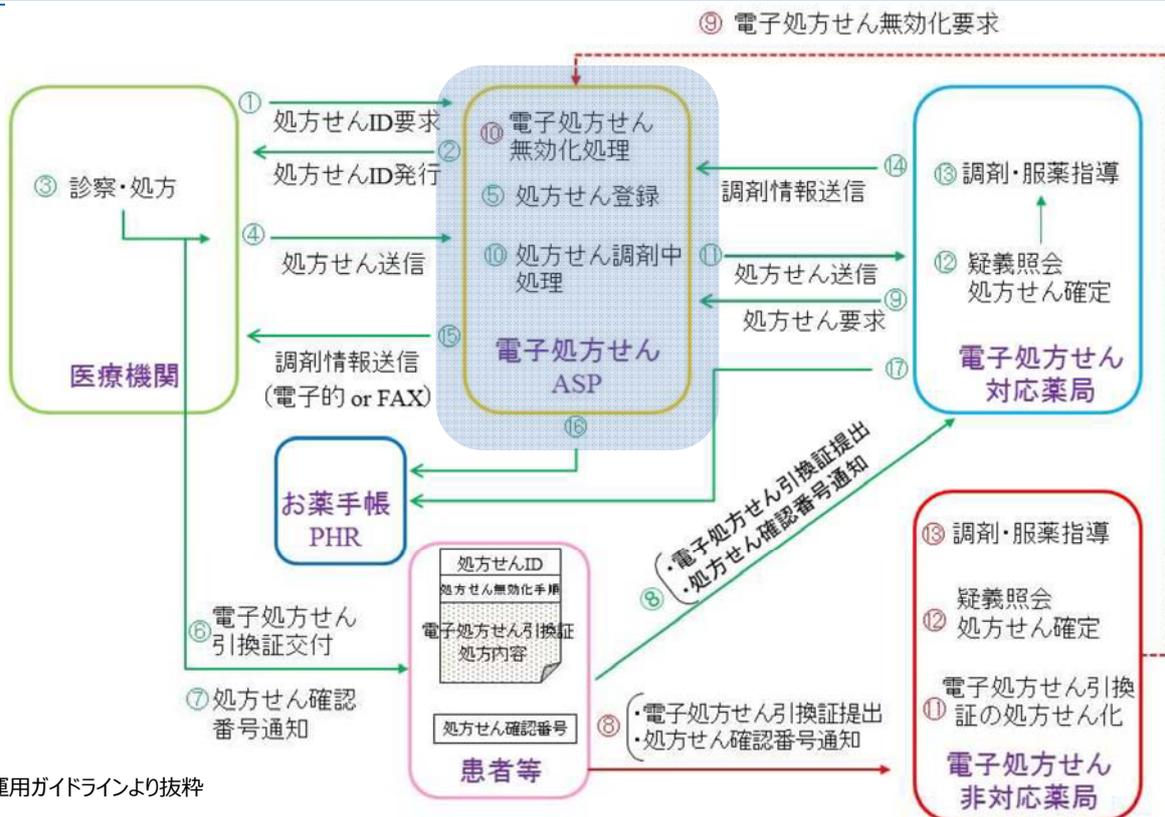
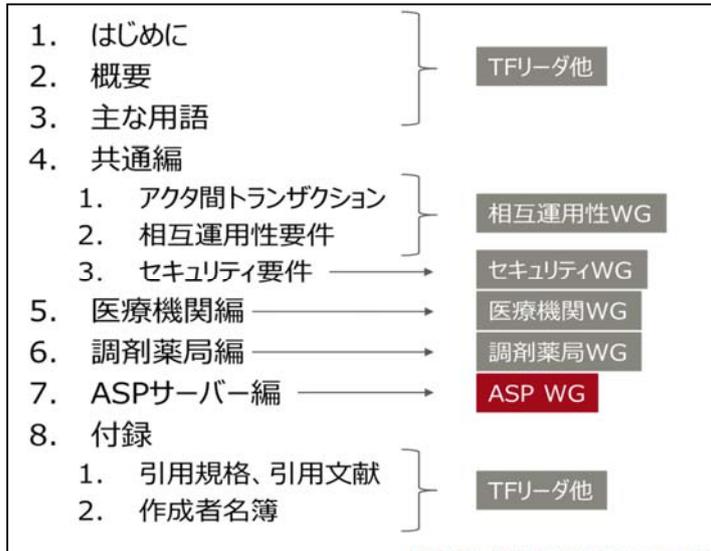
昨年度抽出した「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.0」に基づいた実証課題を元に、ガイド本編の改定案をXCA-I,XDS-I.bを中心として提言としてまとめ中。

**2) WG活動の情報発信**

IHE-ITI検討WGと合同で各種活動を実施。  
海外での画像共有事例の紹介などを実施。

**電子処方せん実装ガイド策定  
タスクフォース**

- 医療機関WG(電子カルテ/医科システム/歯科システム委員会)
- 調剤薬局WG(調剤システム委員会)
- ASP WG(地域医療システム委員会)**
- セキュリティWG(セキュリティ委員会)
- 相互運用性WG(相互運用性委員会)



## 各インタフェースの詳細を定義

7.5.2.1 要求メッセージ

(1) HTTP 要求

HTTP メソッド	POST
URL	http(s)://ホスト名/(サービス名)/PrescriptionData/{処方せん ID}
HTTP ヘッダ	-
Content-Type	text/xml; charset=utf-8
X-FacilityOID	施設 OID
X-ConfirmNo	確認番号
X-ExpireDate	有効期限
HTTP ボディ	処方せん CDA

(2) パラメータ・データ項目説明

■ URL・パラメータ項目

項目	必須	説明
処方せん ID	●	処方せん ID 取得で頂の数字列で表記され
施設 OID	●	要求を行う施設を識
確認番号	●	処方せん ID 取得で頂に生成された 4 桁の
有効期限	○	処方せんの有効期限、未設定の場合は発行したもののみです。

```
POST /PrescriptionData/0001123456789014 HTTP/1.1
Host: localhost
Content-Type: text/xml; charset=utf-8
Content-Length: <length>
X-FacilityOID: 1.2.392.200196.102.11310000000
X-ConfirmNo: At7G
X-ExpireDate: 20170219

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<EPD><Document>
  <PrescriptionDocument>
    (略)
  </PrescriptionDocument>
</Document></EPD>
```

## 各インタフェースの詳細を定義

7.5.2.2 応答メッセージ

(1) HTTP 応答

■ 正常時

HTTP ステータス	201 (Created)
HTTP ヘッダ	-
Location	(/サービス名)/PrescriptionData
Content-Type	-
HTTP ボディ	-

```
HTTP/1.1 201 Created
Location: /PrescriptionData/0001123456789014

HTTP/1.1 400 Bad Request
Content-Type: application/json; charset=utf-8
Content-Length: <length>
```

■ エラー時

HTTP ステータス	HTTP エラーステータス
HTTP ヘッダ	-
Content-Type	application/json; charset=utf-8
HTTP ボディ	エラー情報

```
{
  "Errors": [
    {
      "Code": "E007",
      "Message": "処方せんの電子署名が正しくありません。"
    }
  ]
}
```

想定されるエラー

エラーコード	エラーメッセージ (例)	HTTPステータス	エラー事由
E001	許諾した施設からの要求ではありません。	403 (Forbidden)	施設 OID が未指定または ASP が許諾する施設 (医療機関/施設/薬局/サービス事業者) でなかった。
E003	処方せん ID が適切ではありません。	400 (Bad Request)	処方せん ID が未指定またはチェックディジットが適切でなかった。
E004	確認番号が適切ではありません。	400 (Bad Request)	確認番号が未指定または 4 桁の使用許可文

病病連携、病診連携、**介護、調剤薬局**との連携など、裾野が広がる連携が増えてきています。**地域医療ネットワーク間**の連携も事例が出てきました。

政府の「**次世代型保健医療システム**」の構想に対して、地域医療ネットワークの絡みも重要になると予想されます。

今後も**国の施策の共有・提言、標準化への対応**などJAHISとしての役割の重要性が増してきます。

地域医療システム委員会はH30年度も活発に活動を行っていきますので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

**ご清聴ありがとうございました**